

次号予告

特集／ファシリテーションテクニック(1)

ファシリテーションテクニックの

歴史と展望 東京大学病院 上田 敏

ファシリテーションテクニックの

生理学的基礎 都神経科学総合研 中村 隆一

成人片麻痺に対するファシリテーション

テクニック 横浜市立大学 大川 嗣雄

成人片麻痺に対するファシリテーション・テクニック

(痙性と協調運動障害に対するアプローチ)・・・都立府中病院 半田 健壽

脳血管障害による片麻痺の運動療法(促通と抑制

に対する治療原則と治療手技について)

..... 国立東京病院付属リハ学院 柳 沢 健

成人片麻痺に対するファシリテーション

テクニック 東名古屋病院付属リハ学院 柴田 澄江

<感想>成人片麻痺に対するファシリテーション

テクニック 神奈川リハセンター 福井 罔彦

神経生理学的訓練法に対する私見 九州リハ大学校 和才 嘉昭

成人片麻痺とファシリテーション 中伊豆リハセンター 前田 守

とびら 専門職と身分制度 国立身障センター 初山 泰弘

講座 住まいと身体障害 5. メーカーから 東陶機器 坂本 鉄司

失行症・失認症Ⅲ 東京大学病院 上田 敏

編集後記

寒の戻りで暖冬の日本列島を震え上がらせたのはつい先のこと。受験戦争も済んで、入学式や、新しい職場で心を弾まされている諸氏も多いことと存じます。

ちょうど、この新学年より養護教育の義務制が実施される運びとなり、本誌でもこれに焦点を合わせて特集を企画しました。理想を高くかけて出発したこの制度も、教育・医療・社会の三分野にわたる総合的なサービスの手が差し延べられなければ、増々重度化しつつある心身の障害に対して効果的に対応出来ないことは言うまでもありません。そこで今回は「障害児の治療と教育」のテーマで、この道の草分けでもあり、長年の実践を続けておられる浜田青志先生に、また木下・川合両先生からは養護学校で理学療法士・作業療法士としての経験を通して、上田信一先生からは教育サイ

ドから、片岡氏には障害児をかかえる親の声、つまりサービスを受ける側からそれぞれこの問題にスポットをあててお書き戴きました。

佐藤先生からは、現在のアメリカ・カリフォルニア州の障害児教育システムについて現場からその制度および教育と医療の接点について述べていただきました。私の見聞では、普通学校に併設されていて、なお医療面まで充実しており、重度の者に対してはさらに別の施設が用意されているとのこと、夏休みを利用したサマースクールも開かれており、州内のリハ施設で医療を受けた後の治療の延長として引き継がれたケースなどを見るにつけ、地についた“療育”がなされているように見受けられました。

今年1月から連載してます講座「住まいと身体障害」は好評です。次号、最終回も期待したいと思います。

(大喜多 潤)

<編集顧問>

天 児 民 和
九州労災病院長

五味 重 春
筑波大学心身障害学系教授

砂 原 茂 一
国立療養所東京病院名誉院長

津 山 直 一
東京大学教授・整形外科

水 野 祥太郎
川崎医科大学学長
(五十音順、以下同じ)

<編集委員>

上 田 敏
東大リハビリ部

荻 島 秀 男
わらび診療所

大喜多 潤
兵庫県リハビリセンター

鈴木 明 子
府中リハビリ専門学校

寺 山 久美子
都心障センター

奈 良 勲
有馬温泉病院

福 屋 靖 子
筑波大学

松 村 秩
都養育院リハビリ部

<編集同人>

大 橋 博

大 丸 幸

金 子 翼

鎌 倉 矩 子

紀 伊 克 昌

駒 沢 治 夫

佐 藤 章

佐 藤 馨

嶋 田 智 明

高 橋 正 明

武 富 由 雄